産業組織論 第11回

自然独占における価格規制

だいぶ前の補足

買い手独占について

- （売り手）独占の時には企業は右下がりの需要曲線を認識（たくさん売ると価格下落）

  ⇒「限界収入」（≠価格）を考える

- 買い手独占では右上がりの供給曲線を認識（たくさん買うと価格上昇）

  ⇒「限界支出」を考えれば良い

自然独占と規制

自然独占では1企業に生産を任せる方が費用がかからなくて済む。しかし、放っておくと

- 参入がない場合は独占による死荷重が発生（高価格・過少生産）
- 参入があると規模の経済などが働かない（過剰参入）

自然独占と規制

そのため、政府による規制を課すことが多い。
（公営企業とする方法もある）

- 参入規制
- 価格規制
- 供給義務

ここでは価格規制について考える。

平均費用価格規制

独占の状態では死荷重が大きいため、価格を上げさせないようにする。どの程度に押さえ込むか？

単一財の供給を考え、平均費用曲線が右下がりなところで需要曲線と交わる(「費用逓減産業」という)とする。このとき、

- 需要曲線と限界費用の交点で価格と生産量を決定

すると、死荷重はなくなるが、価格＜平均費用であるため、企業は赤字。

平均費用価格規制

となるため、補助金を出しつつけないと維持できない。赤字にしないためには

- 需要曲線と平均費用曲線が交わるところで価格と生産量を決定

（「平均費用価格規制」と呼ぶ）

すると、企業の赤字ゼロで死荷重は独占より小さい。

平均費用価格規制

しかし、平均費用価格規制を実行しようとすると

- 需要曲線の形状
- 平均費用曲線の形状

を政府が知る必要がある。

二部料金

限界費用曲線と需要曲線の交点での価格を従量料金、そのときに発生するはずの赤字分を固定料金として徴収すると、利潤ゼロ＆社会的余剰最大。

問題点
需要の小さな主体の利用を排除する可能性

ピークロード料金

需要の季節的・時間的なピーク時に高い料金を取ること。

ラムゼイ価格

複数財を供給する企業の場合、
（マークアップ比率）×（需要の価格弾力性）
が一定となるように価格付けを行うこと。

$$\frac{p_i - MC_i}{p_i} \cdot \varepsilon_i = k$$

ラムゼイ価格

社会的余剰最大化問題

$$\max_{(q_1,\cdots,q_n)} \sum_i \left\{ \int [p(q_i) - C(q_i)] dq_i \right\}$$

$$\text{subject to} \quad \sum_i p(q_i) q_i - C(q_i) = 0$$

を解くと得られる。

ラムゼイ価格

問題点

価格弾力性の低い財については高価格

⇓

必需品に高い価格がついてしまう

・価格弾力性を知る必要

総括原価方式

総括原価＝総費用＋事業報酬をちょうど稼げるように料金を決定。

- 費用積み上げ方式

  営業費用や利子・配当など全て積み上げたものを総括原価とする

- レートベース方式

  公正報酬率＝（収入－営業費用）÷資産価値